

令和七年度 A日程入学試験問題

国語

2月3日(月)

— 注 意 事 項 —

2 1

問題は1ページから28ページ、解答用紙は一枚である。
次の指示にしたがうこと。

文学部（日本文学科・中国文学科・史学科）は1・3・4を解答すること。
文学部（外国語文化学科・哲学科）、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、
観光まちづくり学部は1が必須、2・3・4から一つを選択して解答すること。

（解答する問題番号を、解答用紙のマーク欄にマークすること。選択問題を複数解答
した場合は無効とする）

4 3

解答はすべて別紙解答用紙に記入すること。
試験時間は六〇分である。

文学部日本文学科・中国文学科・史学科は解答欄

1

 ～

10

 に、文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は解答欄

1

 ～

16

 に解答すること。

（文学部日本文学科・中国文学科・史学科は問一～問七で40点）

（文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は問一～問十三で70点）

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

地面に直径二メートルほどの輪を描く。円の中心にコーラのあきかんを立てる。その上に片足を置いたオニは、眼を閉じるとやや早口に大きな声で数を算^{かぞ}え始める。私たちははじかれたように輪をとび出して、思い思いの方向へ隠れ場所を求めてかけ出す。ひとしきり聞えていた枯れ草を踏む音、藪^{やぶ}の鳴る音、ささやき声、しのび笑いなどが急速に遠ざかる。オニが百を算え終って眼をあけると、あたりはしんと静まりかえっている。けだものが息をひそめているような、^(a) 神経がむき出しになった時間のただなかに、オニは一瞬^{はうぜん}茫然と立ちつくす。やがてオニが静止した時間の輪を軽やかに踏み越えると、凍結した空気がほどけて、⁽¹⁾ ここかしこにひそやかな動きが始まる。オニのからだの動きにつれて、いくつもの体熱の波紋が重なり、響き合って、音もなくにぎわいをつくり出す。

これは「かんけり」と言われている遊びである。オニはかんを置いた円から出て、行きつ戻りつしながら隠れている者を見つける。見つけたときオニはその位置を指さしながら、かんを踏み、大声でその者の名を呼ばなければならない。わずかに見えたセーターやズボンの色などからオニは類推してその名を呼ぶ。見つけられ捕えられた者たちはかんの置いてある円に少なくとも片足を入れて、仲間が救^{たす}け出してくれるのを待つ。オニが「遠出」をしたり、自分に背を向けているすきに、隠れている者たちは少しずつ円に忍び寄る。オニとかんとの距離、かんと自分との距離、仲間の動きを推し量りながら、オニの死角を衝^ついてかんめがけて走り出す。かんが蹴^蹴られるまでオニが気がつかないことはめったにない。オニも全力疾走でかんに戻る。オニがかんを先に踏めば囚^{とら}われ人が一人ふえることになる。かんが先に蹴とばされれば、囚われていた仲間たちは解放されて、オニがかんを拾って輪の中心に据え直し、再び百を算える間に隠れ散ることができる。もとより状況に応じて選^選び取られる細部のヴァリエーションはあり得る。オニの算える数、続けてオニになる回数、次のオニの決め方、オニは隠れている者全員を見つけるまでオニであるかどうか、などである。

私の住む東京都品川区の旗の台の近辺ではこどもたちが普通の隠れん坊をすることはほとんどない。その替りに変型した隠れん坊はしばしば行なわれている。商店街の裏手の入り組んだ路地や、整地中の小工場の跡地や、まだ人の入っていない建て売り住宅の周りや、周囲のビルに押しつぶされそうな小公園で、こどもたちの呼び方では「複数オニ」とか「陣オニ」といった隠れん坊の変り種が生き延びている。その変り種の中でも、かんけりはこどもたちに好まれている。

「複数オニ」とは、その呼び名の通り、見つかった者全てが見つかった時点でオニに転じて、複数のオニが残りの隠れているこどもを探す隠れん坊である。

「陣オニ」の場合は、立木でも塀の一部でもよい、オニが決めた「陣」にオニより早くタッチすればオニになることから免かれる。ただしかんけりと違って、助かるのは陣にタッチした本人だけである。

こどもたちが集って何かして遊ぼうとするときに、隠れん坊をしないで「複数オニ」や「陣オニ」をすることには見過し難い意味がありそうだ。隠れん坊は、藤田省三が「或る喪失の経験——隠れん坊の精神史——」という論文で述べたように、人生の旅を凝縮して型取りした身体ゲームである。オニはひとり荒野を彷徨し、隠れる側はどこかに「籠る」という対照的な構図はあるけれども、いずれも同じ社会から引き離される経験であり、オニは隠れていた者を見つけることによって仲間のいる社会に復帰し、隠れた者もオニに見つけてもらうことによって疑似的な死の世界から蘇生して社会に戻ることができる。隠れん坊がこどもの遊びの世界から消えることは、こどもたちが相互に役割を演じ遊ぶことによって自他を再生させつつ社会に復帰する演習の経験を失うということである。確かに「複数オニ」や「陣オニ」は行なわれているけれども、それらはもはや普通の隠れん坊の退屈さを救うためにアクセントをつけた、といったていどのことではない。

小学六年生の男の子から聞いた話を翻案すれば、「複数オニ」の演習の主題は裏切りである。オニが目をつぶって算えている間にこどもたちはいつせいに逃げる。それぞれ隠れ場所を工夫しても、同じ方向に逃げれば、近くににいる者同士は互いにどの辺に隠れているかを知っている。そのとき一方が見つかれば即座にオニという名のスパイに変じて、寸秒前に仲間だった者の隠れ家をあばくことになる。近くに隠れた者との仲間意識は裏切り・裏切られる恒常的な不安によって脅やかされている。連帯と裏切りとの相互変換が半所属の不安を産み出し、その不安を抑えこもうとして、裏切り者の残党狩りはいつそう苛酷なものになる。オニは聖なる媒介者であることをやめて秘密警察に転じ、隠れる側も一人ひとりが癒し難い離隔を深めつつ、仲間にスパイを抱えた逃亡者集団と化す。

「陣オニ」について、先ほどの少年は「自分だけ助かればよい」ゲームだという。^(d)「陣オニ」の本質を言いつくした説明であろう。「陣」になる木や石は、元来呪的な意味をもち、集団を成り立たせる中心であった。だが今日こどもたちの行なう「陣オニ」では、「陣」は社会秩序その

ものであり、「陣」に触れることは、自分を守ってくれる秩序へのコミットメントを競争場裡で獲得すること、選良の資格を手にすることである。社会秩序の中心と私的エゴイズムとを結びつけるための単独行的な冒険ということが、「陣オニ」の演習の本義なのだ。

隠れん坊の系譜をはずれた身体ゲームの中でこどもたちに好まれている遊びは「高オニ^{たか}」である。「高オニ」は、土の盛り上ったところ、石段の上部、ブロック塀の上など、オニの立った平面よりもより高い位置に立つことによってオニになることを免かれる遊びで、鬼ごっここの一種と考えられる。この遊びの演習課題は、人より高い位置に立つこと、より高みを目指すことがポイントである。

「複数オニ」、「陣オニ」、「高オニ」のような戸外の遊びに飽きたこどもたちは、こども部屋に閉じこもって「人生ゲーム」に興じる。「人生ゲーム」は、周知のように、金かねを操作することによって人生の階段を上昇することを争うゲームである。ルーレットをまわすたびに金が動く。人生の修羅場(3)をくぐって他人を蹴落しながら、自動車を買ひ、会社に入り、結婚し、土地を買ひ、家を建て、株を売買する。こうして最終的に獲得した財産の多寡に応じて、その人の人生の到達度が量られる。

「複数オニ」、「陣オニ」、「高オニ」の行き着く先が「人生ゲーム」と言えるのではないか。これらの全ての身体ゲームが共通のコスモロジーをもっている。それは、私生活主義と競争民主主義に主導された市民社会の模型としてのコスモロジーであり、また、産業社会型の管理社会の透視図法を骨格にもつコスモロジーでもある。これらの身体ゲームを通して、こどもたちは現実の社会への適応訓練を行ない、おとなの人生(e)の写し絵を身体に埋め込むのである。

もとより玩具産業が次から次へと繰り出して見せる新しいゲームの魅力にこどもたちは抗し難い。こどもたちの関心が移れば、「人生ゲーム」は「クラシック」なゲーム、「ダサイ」遊びになってしまう。だが、たび重なるモデル・チェンジにも拘らず、幻想的に上演されるゲームは、限定された同じコスモロジーを浮び上らせる。こどもたちに目先の関心を変えさせ、次から次へと飽きさせることもまたこの商業主義のコスモロジーの特徴である。こどもたちは飽きる(w)ことの中毒症にかかったようなものだ。しかし、とことんまで飽きたとき、ふと、飽きることに飽きてしまう一瞬がこどもたちを訪れる。密室で、とにかく他人を打ち負かすありとあらゆるゲームに熱中していたこどもたちが、思い出したように外へ出てくることがある。そのときボールがあれば、三角ベースやサッカーが始まることもあるだろう。何もなくてからだだけあるとき、「陣オニ」や「高オニ」が思い出されるだろう。だが、飽きることの煉獄れんごくから戻ってくるとき、こどもたちは管理社会のコスモロジーそれ自体に飽きているのだ。「陣オニ」や「高オニ」に同構造のコスモロジーを感じ取れば、こどもたちのからだは急速に熱中度を失う。

こどもたちのからだの慣性が、意図しないで管理社会のコスモロジーを引き寄せてしまう。累々たる管理社会のコスモロジーの山だ。だが、その間隙かんげきを

I

ようにして、同じからだの慣性がもう一つのコスモロジーに出会う場合がある。もう一つのコスモロジーが憑よきやすい

遊びは、からだの集りが相互性を帯びるときに思い出される。かんけりはそのような身体ゲームの一つである。

かんけりはね、かんを思いつきりけつとばすときが気持ちいいんだよ、と小六の男の子は言う。輪の中心に置かれたあきかんに吸い寄せられるようにして、物陰から物陰へと忍び寄っていく。背を見せたオニとの距離を見切ったとき、もうからだは物陰からとび出している。オニが猛然と迫ってくる。オニのからだとはほとんど交錯するようにしながら、一瞬早くあきかんの横腹を蹴る。あきかんに空中をゆつくり弧を

Ⅱ くるりくるりと舞うとき、時よとまれ、とでも叫んでしまいたいような快感が押し寄せ、同時に「私」という名の何ものかが音もなく抜け出ていき、とても身軽になったからただだけが残される。もっとも、いつもそんなにうまく蹴れるわけではない。しばしばかんはさわがしい音をたてながら舗道を転っていったり、二、三メートル先の芝生にぽんと落ちてとまったりする。それでもかんを蹴った喜びに変わりはない。

(X) かんを蹴るとき、人は市民社会の「心の御柱」を蹴る身ぶりを上演している。輪が市民社会を示すとすれば、かんは秩序の中心であり、管理塔でもある。こどもたちはかんを蹴ることによって、家、学校、塾、地域、社会一般、そして自己内面の管理社会のコスモロジーに蹴りを入れているのだ。

小六の少年はまた言う。かんけりは隠れているとき、とっても幸福なんだよ。なんだか温かい気持ちがする。いつまでも隠れていて、もう絶対に出て来たくなくなるんだ。管理塔からの監視の死角に隠れているとき、一人であつても、あるいは二、三人がいっしょであつても、羊水に包まれたような安堵感あんどかんが生まれる。言うまでもなくこの「籠り」は、管理社会化した市民社会からのアジール（避難所）創建の身ぶりなのだ。市民社会からの離脱と内閉において、かいこがまゆをつくるように、もう一つのコスモスが姿を現（Y）わしてくる。それは、胎内空間にも似て、根源的な相互的共同性に充ちたコスモスである。おとなもこどもも、そこで、見失った自分の内なる〈こども〉、〈無垢なるこども〉に再会するのである。

小六の男の子は最後にもう一つつけ加えて言う。かんけりは「陣オニ」と違ってほかの人を救おうとするの。自分も救われたいけれど、つまった仲間を助けなくちゃ、って夢中になるのが楽しい。（Z） だけどオニは大変だな。オニは気の毒だから何回かかんを蹴られたら交替するんだ。実際、かんけりでは、隠れた者は誰もオニに見つかって市民社会に復帰したいとは思えない。運悪く捕われても、勇者が（4） 忽然と現（3）われて自分を救出してくれることを願っている。隠れた者が囚われた友を奪い返して帰って来ようとするのは、常にアジールの方、市民社会の制外的領域である。オニが「気の毒」であるのは、オニが最初から市民社会の住人である限り、隠れた者を何人見つけても、そのことで自分が市民社会に復帰するドラマを経験しようがないからである。隠れる者は市民社会では囚われ人以外ではなく、したがってオニは管理者であることをやめる

ことはできない。

（栗原彬『かんけりの政治学』）

（注）○人生ゲーム―すごろく形式のボードゲーム。○三角ベース―野球を簡略化したこどもの遊戯。

○煉獄―天国と地獄の中間地帯。○心の御柱―伊勢神宮正殿床下に立てられている神聖な柱。

問一 二重傍線部 (1)・(2)・(3)・(4)の意味として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、(1)は解答欄

1

 に、

(2)は

2

 に、(3)は

3

 に、(4)は

4

 にマークしなさい。

(1)

1

ア	かたくなに
イ	すみやかに
ウ	あちこちに
エ	ゆるやかに
オ	めいめいに

(2)

2

ア	邪魔をする存在
イ	場を治める存在
ウ	間をつなぐ存在
エ	神に従う存在
オ	物を運ぶ存在

(3)

3

ア	激しい状況
イ	難しい問題
ウ	多くの誘惑
エ	間違った道
オ	雑多な経験

(4)

4

ア	ほのかに
イ	にわかに
ウ	ひそかに
エ	あたふたと
オ	ぼんやりと

問二 傍線部 (a) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オの中から一つ選び、解答欄 5 にマークしなさい。

ア 敏感になりすぎて痛みを感じやすい状態。

イ 興奮して見境がつかなくなっている状態。

ウ 茂みに隠れる動物のように無防備な状態。

エ 少しの音も聞き漏らすまいとしている状態。

オ 緊張が高まり感覚が鋭敏になっている状態。

問三 傍線部 (b) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オの中から一つ選び、解答欄 6 にマークしなさい。

ア 身を隠し孤独になることによって、一時的にはあるが社会から分離されている状態。

イ 社会的な死を宣告されることによって、かりそめのものとはいえ孤立無援である状態。

ウ 本来に死ぬわけではないが、死んだふりをする事でいったんは危機から逃れた状態。

エ 社会的な制裁を受けて、生命こそ奪われてはいないがほとんど死んでいるような状態。

オ ひとり荒野をさまようことによって経験する、何度も死に直面するほどの苛酷な状態。

問四 傍線部(c)の理由として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 7 にマークしなさい。

ア 同じ方向に逃げれば仲間がいて心強いが、同時にオニに見つかりやすいという危険を冒すことになるので、隠れる場所に対する所属意識がいつも中途半端なままであるから。

イ 仲間も自分もいつ裏切って敵対する側が変わるのかわからないという状態の中では、自分自身の所属を確定することができず、いつまでも安心を得ることができないから。

ウ 「複数オニ」のルールでは連帯と裏切りとがほぼ半々という関係が続くので、常にどちらかに所属を変更しなければならず、変更の機会を間違えそうで心配になるから。

エ 仲間を裏切ってオニになることを常に計画に入れて、いつでもすぐにオニに転換できるように、気持ちの半分だけ組織に所属するといふ不安定な関係を続けているから。

オ かつての仲間が裏切ってスパイになれば、自分が隠れている場所をオニに教えるだろうと想像すると落ち着かなくなり、すぐにでもその場所から逃げ出したくなるから。

問五 傍線部(d)の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 8 にマークしなさい。

ア 「陣」になる木や石には呪的な意味があり、供犠として仲間をオニに捧げる儀式が「陣オニ」の本質であるということ。

イ 自分だけ助かればよいという私的エゴイズムは、社会秩序を身につける「陣オニ」の意義には反するものだということ。

ウ 社会秩序そのものである「陣」に触れることは逸脱行為であり、「陣オニ」にはそういう独善的な危険があるということ。

エ 競争に勝ち社会の中で選ばれた存在になる疑似体験をすることに、「陣オニ」という遊戯の本当の意味があるということ。

オ 呪的な意味を喪失した「陣」は自分を守ってくれないので、「陣オニ」は単独的冒険にならざるをえないということ。

問六 傍線部(e)の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 9 にマークしなさい。

ア 純粹無垢なこどもに社会人の複雑な人生を理解させ習得させるためには、絵画のようにいったん抽象化したものを身体深くに埋め込む必要があるということ。

イ 「人生ゲーム」は確かにおとなの人生を模写してはいるのだが、やはり作り物ではあるので、こどもに理解させるにはそれなりに長い時間がかかるということ。

ウ 他人よりも優位に立ち社会的な成功を手に入れることが人生の目的とされるような産業社会型の管理社会の論理を、遊戯の中で模擬的に経験すること。

エ 産業社会型の管理社会の透視図法で描かれた人生の写し絵には、成人と児童の両方に共通する模型的なコスモロジーが二重写しに投影されているということ。

オ こどもたちが現実の社会に適応できるように訓練するためには、まずは身体レベルでおとなの行動を真似することから始めてみなければならぬということ。

問七 問題文の内容としてふさわしいものを、次のア～カの中から二つ選び、解答欄 10 に二つマークしなさい。

ア 「隠れん坊」という遊戯には社会との関係があるが、「陣オニ」には社会との関係はない。

イ 「複数オニ」は「隠れん坊」とほとんど同じ遊戯だが、そこに少しだけ変化を付け足している。

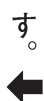
ウ かんを蹴る「かんけり」のルールと、陣にタッチする「陣オニ」のルールはほぼ同じである。

エ 「高オニ」は鬼ごっここの一種であり、人よりも高い位置に立つことが勝敗の決め手となる。

オ こどもたちはすぐに古いゲームに飽きてしまうので、玩具産業は次々と新商品を開発しなければならない。

カ 「かんけり」は「陣オニ」や「高オニ」とは異なるコスモロジーを有する身体ゲームである。

注意 文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は、次のページに問題が続きます。



問八 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

空欄 I に入る語として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 11 にマークしなさい。

ア 守る イ 盗む ウ 拾う エ 追う オ 縫う

問九 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

空欄 II に入る語として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 12 にマークしなさい。

ア 描いて イ 開いて ウ たどって エ なぞって オ 曲がって

問十 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

波線部 (W) の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 13 にマークしなさい。

ア 次々とゲームを取り換えてきた子どもたちが、やがて飽きること自体に飽きてしまい、三角ベースやサッカーといった身体を駆使した活動的な遊びの方に夢中になる状態。

イ 新しい遊びやゲームに飽き続けていると、感覚があやふやになりこれ以上はもう飽きることができなくなる瞬間が訪れ、すべてが新鮮に感じられるようになるという状態。

ウ 一つのゲームに飽きるとすぐ次の新しいゲームに手を出すということを際限なく繰り返し、まるで飽きることを目的にしてゲームを取り換えているようにさえ見える状態。

エ 次々と発売される新しいゲームに飽きるということを続けていると、今度は飽きるということ自体が楽しくなってきた、さらにもっとつまらないゲームがしたくなる状態。

オ 特定のゲームを夢中になってやり続けていると、本心ではもうそのゲームには飽き飽きしているのだけれども、今さらもう止めることができなくなってしまうような状態。

問十一 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

波線部 (X) の説明として最もふさわしいものを、次の A～オの中から一つ選び、解答欄 14 にマークしなさい。

A 「輪」とは市民社会の秩序を象徴するものであり、その中心に置かれた神聖な「心の御柱」を蹴り飛ばすことには、市民社会そのものを否定しようとする挑発的な行為という意味が込められているということ。

イ 「かん」とは管理社会の秩序を象徴するものであり、それを蹴り飛ばすことには、自分を縛りつけている管理社会の拘束から自由になろうとしている態度を表明する象徴的な意味が込められているということ。

ウ 市民社会の「心の御柱」を蹴るという身ぶりはどこまでも表面的な演技であって、本気で蹴っているわけではなく、いかにもこどもらしい無邪気で遊戯的な精神の発露という意味が込められているということ。

エ 「かん」は「私」という名の何ものかを封印した管理塔であり、それを蹴り飛ばすことには、封じ込められていた自分自身が解放されて自由になるという痛快な逆転劇を演じる意味が込められているということ。

オ 神聖な「心の御柱」である「かん」を蹴るのは社会秩序を混乱させるような危険な行為だが、それゆえに社会の禁忌を破ることに背徳的な快感があることを身体的に表現する意味が込められているということ。

問十二 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

波線部 (Y) の説明として最もふさわしいものを、次の A～オの中から一つ選び、解答欄 15 にマークしなさい。

A 管理者であるオニから見えないところに隠れていると一時的に管理社会の秩序から逃れることができ、そこには包まれて守られるような安らぎが感じられる世界秩序が新たに出現するということ。

イ いつもオニが監視している冷酷な管理社会のルールから逃げ出すことによって、かいこのまゆや胎内のように閉じてはいるがぬくもりの感じられる管理的な世界秩序が新たに出現するということ。

ウ オニに管理される平穏な市民社会のコスモロジーから離脱したときに現れるもう一つのコスモスとして、管理社会化した市民による相互的共同性に充ちた世界秩序が新たに創造されるということ。

エ オニの厳しい監視を受けて管理社会化した市民社会から逃げ出したその先には、すでに失われてしまった純粹無垢なこどもの心にもう一度再会できる幼稚な世界秩序が新たに出現するということ。

オ かいこがまゆをつくるように自分だけの世界に閉じこもり他者との交渉をすべて遮断することによって、アジールと言われる胎内にも似た心地よく楽しい世界秩序が新たに創建されるということ。

問十三 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

波線部 (Z) の理由として最もふさわしいものを、次の A～オの中から一つ選び、解答欄 16 にマークしなさい。

ア 逃亡者として隠れた者にはいずれ市民社会に復帰することができるというドラマが用意されているが、一度オニになった者はいつまでもオニでなければならないので、市民社会に復帰することも許されず、感動的な場面とは全く無縁であるから。

イ 隠れる者は管理社会化した市民社会では囚われ人でしかなく、市民社会に復帰したいとは考えないが、オニは隠れる者をつかまえることで市民社会に復帰したいと考えているので、次から次へと囚われ人を摘発し続けなければならないから。

ウ 逃亡者の集団はどこまでも自由に行動し一切のルールに縛られることがないが、管理者であるオニは秩序を守らねばならず、市民社会の外部に脱出することも許されないので、いつまでも陣地を守り続けねばならない不自由な役割であるから。

エ 隠れる者には仲間を助けて市民社会の外部に帰還するという劇的な経験が与えられるが、最初から市民社会の内部にいるオニは隠れた者をどれほど見つけたとしても帰還すべき場所もなく、いつまでも管理する立場から逃れることができないから。

オ 隠れた者はたとえオニにつかまっても勇者に救出してもらえぬが、それに対してオニは勇者に助けられることもなく、何もかも一人きりで管理しなければならないので、誰からも称賛されることもなく孤独に耐えなければならないから。

この問題は、解答欄 21 ～ 28 に解答すること。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(30点)

日本人の多くは、世代を問わず、一度は桃太郎の物語を読み聞かせてもらったり、絵本を読んだりしたことがあるのではないだろうか。桃から生まれた桃太郎が立派に成長し、鬼ヶ島へ鬼退治に行く。これまで人間に対して悪行を尽くしてきた鬼たちを懲らしめ、鬼たちが人間から奪っていた金銀財宝を⁽¹⁾意気揚々と持ち帰る……。この物語が伝えたいことは、「悪いこと（人間に対する悪行）をしたら、悪いことが起こる（懲らしめられる）」、「善いことをしたら（勇気をもって戦ったら）、善いことが起こる（金銀財宝を持ち帰り称賛を浴びる）」という、原因と結果の関係である。私たちは、幼少期に触れる絵本や、テレビ番組、実際の経験を通してこのような因果関係が——現実場面ではあてはまらないことも多々あるにもかかわらず——世界に安定して存在していると考えようになる。そして、世界は^(a)この法則に従って存在し続け、秩序だっており、そのような安定した状況で人はその人にふさわしい、分相応のものを得ているのだという信念を身につけていく。このような信念をメルヴィン・ラーナーは公正世界信念と呼んだ。我々は、お金や物の分配、決められた手続きを踏まえているかといった、目に見える形の公正さ以外に、過去の行いと現在得たものの因果関係においても、公正、不公正を認識し、そのバランスがとれている状態を好むのである。

公正世界信念は、我々が日常生活を送るうえで、ある種の安心感を与えてくれる。秩序などなく、日々が予測不可能で、悪事を働いた者が得をし、努力をした者が損をする場面が⁽²⁾散見される世界を想像してほしい。おそらく、そのような世界では努力するだけ無駄であると考えられるようになるだろう。銀行にお金を預けることすらためらうようになるかもしれない。なぜなら、不安定な世界ではいつ銀行が倒産するかもわからないし、騙^{だま}されてお金をとられるかもしれない。世界が公正で安定しているからこそ、我々は長期的な目標に向かって努力を続けたり、自分自身に起こりうることは自分でコントロールできると考えたりできる。公正な世界を強く信じている人は、主観的な幸福感が高いという研究結果もある。

^(b) 公正な世界の存在を強く信じることは、時に他者を傷つける。信念に一致しない出来事——たとえば、道を歩いていて突然強盗に遭い、金品を奪われたうえにけがを負ってしまった人の話——を見聞きすると、公正な世界の存在が脅かされてしまう。そのような状況になると、我々はさまざまな手段を用いて信念の回復に努めようとするが、その手段の一つに、不運な目に遭った被害者を不当に責める被害者非難がある。被害

者非難が起こりやすい状況は、①被害者と自分の属性に類似点がある場合、②被害に遭った原因をどこにも帰属できない場合、③被害者が長期的に苦しむ（被害の回復が望めない）場合、などが挙げられる。その背景には公正世界信念を維持しようとする動機が働いている可能性もあるだろう。

被害者非難を通した公正世界信念の回復に⁽³⁾焦点をあてたミッチェル・キャランらの研究を紹介しよう。この研究の参加者は、若い男性がイヌの散歩中に襲われて強盗に遭ったというニュース記事を読む。その際、犯人はすでに逮捕、処罰されたといわれる（悪いことをしたら罰せられるという意味で公正世界信念が維持される）条件と、いまだ逮捕されていないといわれる（世界の安定や秩序が脅かされている）条件を設定した。その後、被害者非難に関わる項目（被害者のことを好きか、被害者に対する印象はポジティブかネガティブか、被害者の注意が足りなかったと思うか、など）に回答させた。次に、今回の研究とは関係のない、別の研究であるとの教示を受けて、意思決定課題への回答を求めた。じつはこの課題が、遅延割引課題になっており、短期間で得られる小さな報酬と、長期間待つことで得られる、より大きな報酬のどちらを愛好する傾向にあるかが測定されていた。もし、被害者非難をすることで、安定して秩序だった世界において人はその人にふさわしいものを公正に受け取っていると信じ続けることができれば（公正世界信念を維持することができれば）、長く待つてもより大きな報酬を受け取る方を選ぶことができる。一方で、被害者非難をせず、世界は不安定で無秩序であると認識していれば（公正世界信念が脅威にさらされていたら）、長く待つところで本当にその報酬がもらえるのか不安に感じ、少額でもすぐに受け取れる選択肢を選ぶとする。先に示した条件の違いによって、選択される報酬の種類は異なるのだろうか。

^(c)結果は予想通りであった。つまり、犯人が逮捕されていない条件では、被害者非難をした程度が強い参加者ほど、長時間経過後に得られる大きな報酬を好んだ。一方で、犯人が逮捕、処罰されている条件では、このような関係は見られなかった。また、被害者非難をあまりしなかった参加者は、犯人が逮捕されていない条件で、逮捕、処罰されている条件よりも、短期間で得られる小さな報酬を好んだ。悪いことをした犯人がまだ逮捕されておらず、被害者が苦しんでいるという話を聞いて公正世界信念が脅威にさらされると、将来の見通しをもちにくくなり、すぐにもらえる、相対的に小さな報酬に対して、より魅力を感じるようになる。しかし、被害者を非難し、公正世界信念が回復すると、より大きな報酬を得るために安心して待てるようになるのである。被害に遭った人物の道徳的価値が低い場合（違法薬物の売人）でも、道徳的価値が高い場合（善良な一般市民）と比較して、長時間待つて得られる大きな報酬を愛好しやすくなった。「道徳的価値の低い人物に起こった悪いこと」は公正世界信念と一致する因果関係であり、^(d)世界はこれまで通り安定していると信じ続けられる。その結果、より長期的な視点で報酬の選択が行われやすくなる。不運に見舞われた被害者に対する非難は、被害者を傷つける。しかし非難をする側にとっては、公正世界信念の回復を助け、

その結果として長時間経過後に得られる大きな報酬のために短時間でもらえる小さな報酬を無視できるようになるのである。

(村山綾『公正とシステム正当化』)

(注) ○メルヴィン・ラーナー——社会心理学者。

問一 二重傍線部 (1)・(2)・(3) の意味として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中からそれぞれ一つずつ選び、(1) は解答欄 21 に、

(2) は 22 に、(3) は 23 にマークしなさい。

(1)

21

ア 興奮がおさまらないさま
イ うれしくて落ち着かないさま
ウ 気分が徐々に盛り上がるさま
エ 元気があつて好ましいさま
オ 得意で誇らしげなさま

(2)

22

ア あちこちにちらほら見えること
イ 鮮やかな情景に移りすること
ウ 偶然に見いだされてしまうこと
エ ちぐはぐな状態に見えること
オ 全体的に広がって見えること

(3)

23

ア 出来事の始まりになること
イ 問題の解答に当たるところ
ウ もっとも熱量の高いところ
エ 注意や関心が集まること
オ 構造の中心になること

問二 傍線部 (a) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 24 にマークしなさい。

ア 多くの人は、テレビ番組などを通して世界は安定して存在していると知ることになること。

イ 幼少期に触れる絵本などから学ぶ教養は、現実には当てはまらない場合が多いということ。

ウ 悪行を働けば自らが悪いことが起こり、善行を積みめば自身に善いことが起こるということ。

エ 秩序だっている安定した状況において、人間は分相応の生き方をするしかないということ。

オ 世代を問わず、日本人の多くには桃太郎の物語が現実においても当てはまるということ。

問三 傍線部 (b) の理由として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 25 にマークしなさい。

ア 人はさまざまな手段を用いて、公正世界信念が脅かされないように、他者に対して攻撃を加えようとするから。

イ 公正世界信念の回復を図ろうとするために、不安定で無秩序な状態を拒絶し他者を非難する場合があるから。

ウ 桃太郎が鬼退治に行ったように、悪行を働いている人間に対しては攻撃的な行動が認められる場合があるから。

エ 努力をした者が損をする場面は、現実には当たり前存在するため、努力自体を非難する事例も珍しくないから。

オ 道を歩いていて突然強盗に襲われ、けがを負わされたなどという話は、聞かされている側が傷つくから。

問四 傍線部(c)の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 26 にマークしなさい。

ア 不公正な世界においては長期的な目標に向かって努力を続けて行く必要があるため、より大きな報酬を得ようとするという予想通りの結果になったこと。

イ 世界の安定を図るために、多くの人は長期的な目標に向かって努力を続け、より大きな報酬を求めるようになるという予想通りの結果になったこと。

ウ 被害者非難は基本的に誤った行為であるため、大きな報酬を得ようとする人はそのようなまねをけつしてしないという予想通りの結果になったこと。

エ 遅延割引課題は公正世界信念の原則と基本的には無関係であるため、状況に応じて被験者は大きな報酬を求めるという予想通りの結果になったこと。

オ 世界の安定が確信されたならば、短期的で小さな報酬を得るよりも、長時間待って大きな報酬を得ようとするという予想通りの結果になったこと。

問五 傍線部(d)の理由として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 27 にマークしなさい。

ア 道徳的価値の低い人物にはどのような悪いことが起こってもかまわないので、世界はこれまで通り安定していると信じ続けられるから。

イ 道徳的価値の低い人物であっても、ときには善行を働く場合があるものの、それは公正世界信念の脅威というほどのことではないから。

ウ 道徳的価値の低い人物は悪行を働く人間であるため、その身に悪いことが起きたとしても、それは公正世界信念と一致するから。

エ 道徳的価値の低い人物は善行と悪行の区別がつかないため、悪いことをすれば悪いことが起こるとする因果応報の原理に適用から。

オ 道徳的価値の低い人物が悪行を働くおかげで、悪いことをすれば悪いことが起こるとする公正世界信念を信じられるようになるから。

問六

問題文の内容としてふさわしいものを、次のア～カの中から二つ選び、解答欄 28 に二つマークしなさい。

ア 自分にふさわしいかはともかく、大きな報酬を得ている状態こそが公正世界信念を表すということを、人は幼少期から絵本などで学んでいる。

イ 秩序だった安定した状況でかつ分相応のものを得られるというような公正な世界を強く信じている人は、主観的な幸福感が高い傾向にある。

ウ 突発的な事件の被害者に関する報道を見た際、自分の属性と類似点がある場合は共感性が生まれやすくなり、その被害者を支援しようとする。

エ 被害者が苦しんだままの状態は安定して秩序だった世界に脅威をもたらすことになるが、被害者非難は、公正世界信念の回復を助けることになる。

オ 公正世界信念が維持されていれば、長時間経過後に得られる大きな報酬も、短時間で得られる小さな報酬も、どちらであろうと気にならなくなる。

カ メルヴィン・ラーナーは、公正世界信念を通じて、善良な心を持つ人々が相応に大きな報酬を得られるような世界になることを訴えている。

〔文学部日本文学科・中国文学科・史学科は 必須〕。文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は 選択〕

文学部日本文学科・中国文学科・史学科は解答欄 41 ～ 57 に、文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は解答欄 41 ～ 54 に解答すること。

（文学部日本文学科・中国文学科・史学科は問一～問十で40点）

（文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は問一～問七で30点）

次の文章は、『枕草子』の一節で、殿が娘の宮の屋敷を訪れた場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

御前に^(一)ゐ^ゐさせたまひて、物など聞こえさせたまふ。御いらへなどのあらまほしさを里なる人などに^(a)は^はつかに見せばやと⁽¹⁾見たてまつる。女房など⁽²⁾御覧じわたして、「宮、何事をおぼしめすらむ。ここらめでたき人々を^(二)据^すゑ並^なめて御覧することほ、うらやましけれ。一人わるき容貌^{かたち}なしや。これみな家々の娘どもぞかし。あはれなり。ようかへりみてこそ、候^(b)は^はせたまはめ。さても、この宮の御心をばいかに知りたてまつりて、かくはまゐりあつまりたまへるぞ。いかにいやく物を惜しみせさせたまふ宮とて、われは宮の生まれさせたまひしよりいみじうつかうまつれど、まだおろしの御衣^ぎ一つ賜^{たま}はらず。^(c)なにか後言^{しごひご}には聞こえむ」などのたまふがをかしければ、笑ひぬれば、「まことぞ。をこなりと見てかく⁽³⁾笑ひいまするが、はづかし」などのたまはするほどに、内裏^{うち}より式部丞^{しきふのうぢ}なにがしまゐりたり。

^(x)御文は大納言殿取りて、殿に奉^{ほう}らせたまへば、引き解きて、「ゆかしき御文かな。^(d)許されはべらば、開けて見はべらむ」とはのたまはすれど、

「あやふしとおぼいためり。^(y)かたじけなくもあり」とて、奉^{ほう}らせたまふを、取^とらせたまひても、ひろげさせたまふやうにもあらず、もてな

させたまふ御用意^{みす}ぞありがたき。御簾^{みす}のうちより女房^{しとね}褥^いさし出^いでて、三、四人御几帳^{きぢやう}のもとにゐたり。「あなたにまかりて、祿^{ろく}の事ものしはべらむ」とて、立たせたまひぬる後ぞ、御文御覧^みずる。御返し、紅梅^{こうばい}の薄様^{うすやう}に書かせたまふが、御衣^ぎの同じ色にほひかよひたる、なほかくしも

おしはかりまゐらする人はなくやあらむとぞ^(e)くちをしき。「今日のはことさらに」とて、殿の御方より、祿^{ろく}は出ださせたまふ。女の装束に紅梅^{こうばい}の細長^{はななが}そへたり。^(f)さかななどあれば酔^よはさまほしけれど、「今日はいみじき事の行事にはべり。あが君、許^{ゆる}させたまへ」と、大納言殿にも申

して⁽⁵⁾立ちぬ。

(注) ○御前―宮の御前。 ○大納言殿―宮のきようだい。 ○褥―敷物。 ○禄―祝儀。 ○薄様―和紙の一種。

問一 傍線部(1)～(5)の動作主の組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 41 にマークしなさい。

ア	(1) 殿	(2) 女房	(3) 宮	(4) 殿	(5) 式部丞
イ	(1) 殿	(2) 女房	(3) 宮	(4) 式部丞	(5) 殿
ウ	(1) 作者	(2) 女房	(3) 女房	(4) 殿	(5) 式部丞
エ	(1) 作者	(2) 殿	(3) 女房	(4) 式部丞	(5) 殿
オ	(1) 作者	(2) 殿	(3) 女房	(4) 殿	(5) 式部丞

問二 傍線部(a)・(b)・(f)の現代語訳として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、(a)は解答欄 42 に、

(b)は 43 に、(f)は 44 にマークしなさい。

(a)					(b)				
42					43				
ア	はつきりと見せたいものだ	イ	わずかにでも見せたいものだ	ウ	どうかして見せたいものだ	ア	伺候なさるのがよいでしょう	イ	伺候させなさるのがよいでしょう
エ	少しだけ見せてほしいものだ	オ	ひそかに見てほしいものだ	ウ	伺候させていただこうと思います	エ	お仕え申し上げるのがよいでしょう	イ	お仕え申し上げるのがよいでしょう
オ						オ	お仕え申し上げなさるでしょう		

(f)

44

ア つまみなどがあつたら酔いたいけれども

イ つまみなどがあつたら酔わせたいけれども

ウ つまみなどがあるので酔わせてほしいけれども

エ つまみなどがあるので酔わせたいけれども

オ つまみなどがあるので酔いたいけれども

問三 傍線部(c)はどのようなことを述べているのか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 45 にマークしなさい。

- ア 宮の陰口を何者かが広めているのを聞いた、ということ
- イ 宮のいない時に宮のうわさを言うことにする、ということ
- ウ 宮がけちだと陰口ではなく本人を前にして言う、ということ
- エ 宮の物惜しみする性格を陰で言おうかと思う、ということ
- オ 宮のお下がりがもらえないから愚痴を言う、ということ

問四 傍線部(d)とあるが、この手紙は結局どうなったか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 46 にマークしなさい。

- ア 殿と宮が一緒に読んだ。
- イ 殿は読んだが、宮は開こうとしなかった。
- ウ 殿が読んだ後で、宮は一人になってから読んだ。
- エ 殿は読まなかったが、宮は式部丞が帰ってから読んだ。
- オ 殿は読まなかったが、宮は殿がいなくなってから読んだ。

問五 傍線部(e)のように思ったのはなぜか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 47 にマークしなさい。

- ア 返事を受け取ったとしても衣装の色に思いをはせることはできないから。
- イ 返事の紙の色をどのように選ぶのか分かっていない人が誰もいないから。
- ウ 返事を書く時に衣装の色まで気にすることのできる人はほとんどいないから。
- エ 手紙を読んで返事を書く時に側にいてほしい殿が席を外しているから。
- オ 返事に使う紙が衣装と調和していることに気づいている人がいないから。

問六 本文中の内容として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 48 にマークしなさい。

ア 宮の殿に対する受け答えや心遣いは申し分のないものだった。

イ 宮に仕える女房は殿の娘の中から容姿の良い者を選んだ。

ウ 宮は物惜しみして女房に衣一つ授けることはなかった。

エ 殿は笑われたので祝儀の準備をと言って席を立った。

オ 式部丞は祝儀に女性の装束を与えられたが受け取らなかった。

問七 波線部の動詞(一)「ゐ」・(二)「据ゑ並め」の、

1 活用之行 2 活用の種類 3 活用形

は何か。該当するものを、次のア～カの中から一つずつ選び、(一)の1は解答欄 49、2は 50 に、3は 51 に、

(二)の1は 52、2は 53 に、3は 54 にマークしなさい。

1	ア	ア行	イ	イサ行	ウ	ウナ行	エ	エマ行	オ	オヤ行	カ	カワ行
---	---	----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----

2	ア	四段活用	イ	上一段活用	ウ	上二段活用	エ	下一段活用	オ	下二段活用	カ	変格活用
---	---	------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	------

3	ア	未然形	イ	連用形	ウ	終止形	エ	連体形	オ	已然形	カ	命令形
---	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----

注意 文学部日本文学科・中国文学科・史学科は、次のページに問題が続きます。



問八 (文学部日本文学科・中国文学科・史学科のみ解答すること)

二重傍線部 (X) は誰から誰にあてたものか。最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 55 にマークしなさい。

- ア 帝から宮に イ 式部丞から宮に ウ 帝から殿に エ 式部丞から殿に オ 大納言から殿に

問九 (文学部日本文学科・中国文学科・史学科のみ解答すること)

二重傍線部 (Y) の文法的説明として誤っているものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 56 にマークしなさい。

- ア 「あやふし」はク活用の形容詞である。
イ 「おぼい」はサ行四段活用の連用形である。
ウ 「おぼい」は宮に対する尊敬語である。
エ 「た」は存続の助動詞の連体形である。
オ 「めり」は聴覚による推定を表す助動詞である。

問十 (文学部日本文学科・中国文学科・史学科のみ解答すること)

二重傍線部 (Z) はどのようなことを述べているのか。最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 57 にマークしなさい。

- ア おそれ多いので遠慮する、ということ
イ おそれ多いので退席する、ということ
ウ 面目ないので反省する、ということ
エ ありがたいが辞退する、ということ
オ ありがたいので頂戴する、ということ

〔文学部日本文学科・中国文学科・史学科は 必須。文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は 選択〕

文学部日本文学科・中国文学科・史学科は解答欄 61 ～ 69 に、文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済

学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は解答欄 61 ～ 68 に解答すること。

（文学部日本文学科・中国文学科・史学科は問一～問七で 20 点）

（文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は問一～問六で 30 点）

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、問いの都合で返り点・送りがなを省いた部分がある。

貞観元年、太宗曰、朕看古来帝王、以仁義為治者、国
祚延長。任法御人者、雖救弊一時、敗亡亦促。既見前王、
成事、足為元龜。今欲專以仁義誠信為治、望革近代之
澆薄也。黃門侍郎王珪對曰、天下彫喪日久、陛下承其
余弊、弘道移風、万代之福。但非賢不理、惟在得人。太宗
曰、朕思賢之情、豈捨夢寐給事中杜正倫進曰、世必有
才。隨時所用、豈待夢傅說、逢呂尚、然後為治乎。太宗深

(注) ○貞観―太宗の元号。 ○太宗―唐の二代皇帝の李世民。 ○国祚―国運。 ○元龜―立派な手本。

○澆薄―世の中の人情がうすいさま。 ○黄門侍郎―官職名。 ○王珪―人名。 ○彫喪―しばみおとろえる。

○給事中―官職名。 ○杜正倫―人名。 ○夢寐―眠って夢を見る。

○傳説・呂尚―人名。ともに優れた臣下。殷の高宗は夢に現れた傳説を土木工事をしている人の中から見つけ出し、周の文王は占いの結果、川のほとりで釣りをしていた呂尚を得た故事を踏まえる。

問一 波線部 (X)・(Y)・(Z) の送りがなを含めた読み方として最もふさわしいものを、次の ア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、(X) は解答

欄 61 に、(Y) は 62 に、(Z) は 63 にマークしなさい。

(X) 亦			
61	ア	イ	ウ
	はた	ゆゑに	また
	エ	さらに	

(Y) 専			
62	ア	イ	ウ
	かすかに	もつばら	はなはだ
	エ	すなはち	

(Z) 対			
63	ア	イ	ウ
	こたへて	かへつて	おうじて
	エ	むかひて	

問二 傍線部 (a) の解釈として最もふさわしいものを、次の ア～エの中から一つ選び、解答欄 64 にマークしなさい。

- ア 裁判官を中心として、人々を統治させることになつても、
- イ 法律にまかせて、人々を支配しても、
- ウ 法律に基づいて、臣下を登用したとしても、
- エ 仁義を手本として、臣下に任せたとしても、

問三 傍線部 (b) の解釈として、最もふさわしいものを、次の ア～エの中から一つ選び、解答欄 65 にマークしなさい。

ア 皇帝が賢明でなければ、世の中は治まりません。賢明な皇帝が必要なのです。

イ 皇帝が賢明であつても、世の中は治まりません。人間の解決できる問題ではありません。

ウ 良い法律でなければ、世の中は治まりません。優れた法律を作れる人物が必要なのです。

エ 賢明な臣下がいなければ、世の中は治まりません。賢明な臣下が必要なのです。

問四 傍線部 (c) は、「豈に傳説を夢み、呂尚に逢ふを待ちて、然る後に治を為さんや、と」と読む。これに従って施す返り点として最もふさわしいものを、次の ア～エの中から一つ選び、解答欄 66 にマークしなさい。

ア 豈^下待^二夢^二傳^一説^中逢^上呂^上尚^上、然^上後^上為^上治^上乎

イ 豈^五待^二夢^二傳^一説^一逢^四呂^三尚^三、然^上後^上為^上治^上乎

ウ 豈^三待^下夢^下傳^上説^上逢^二呂^一尚^一、然^上後^上為^上治^上乎

エ 豈^下待^二夢^二傳^一説^一逢^二呂^一尚^一、然^上後^上為^上治^上乎

問五 傍線部 (d) の理由として、最もふさわしいものを、次の ア～エの中から一つ選び、解答欄 67 にマークしなさい。

ア 拙速な改革を行うのではなく、賢明な臣下の出現を待ち、それと一緒に慎重に改革すべきと気付いたから。

イ 賢明な臣下は必要であるが、それよりも重視すべきは法律であり、苦しむ人々のために作成を急ぐべきと気付いたから。

ウ 賢明な臣下の出現という偶然などには頼るべきではなく、皇帝自身が積極的に政治を行うべきと気付いたから。

エ 賢明な臣下の出現をただ待つのではなく、皇帝自身から人材を探し求め、それを任用すべきだと気付いたから。

問六 本文の内容として、最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、解答欄 68 にマークしなさい。

ア 太宗は、乱れた世を治めるために、効果の表れにくい仁義誠信ではなく、法律にもとづく政治を志向したが、臣下たちには全く理解されなかった。

イ 太宗は、立派な王たちの事蹟を手本とし、仁義誠信によって国を治め、近年の人情のうすい風俗を改革することを目指していた。

ウ 杜正倫は、優れた臣下はわざわざ探さずとも太宗の目の前にいるとし、自身を含む臣下たちをいにしえの傳説ふえつや呂尚りよしやうのように重く用いるように要求した。

エ 王珪は、乱れた世を治めようとした太宗を賞賛したが、いまは時期尚早であるため、時期を待ち、法律を作成する人材を集めるように主張した。

注意 文学部日本文学科・中国文学科・史学科は、次のページに問題が続きます。 ←

問七 (文学部日本文学科・中国文学科・史学科のみ解答すること)

二重傍線部の理由として、最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、解答欄

69

 にマークしなさい。

ア 人々のために、良い法律を作りたいという気持ちを忘れたことなどないから。

イ 賢明な臣下を得たいという気持ちを忘れたことなどないから。

ウ 臣下たちが自分のために寝る間も惜しんで働いていることを忘れてはいないから。

エ 国家がとても困難な状況にあるのに、平然と寝てなどいられないから。